

神奈川県ボランティア活動推進基金審査会

平成28年5月25日 14:00～20:35

(開会)

(基金事業課長から開会の説明)

- ・全委員出席。
- ・本日の流れ
 - ・協働事業負担金における特定課題枠の課題選考。
 - ・ボランティア団体成長支援事業の選考。
 - ・ボランティア団体成長支援事業は、プレゼン審査と結果発表も含め 19 時終了予定。
 - ・平成28年度協働事業負担金（保留分）の選考
 - ・幹事会幹事の選任。
 - ・その他、奨励賞の審査基準に関する検討。

(審査会長から開会の宣言)

- ・平成28年度第1回ボランティア活動推進基金審査会を開催する。
- ・本日の審査会は、率直なご意見をいただき公平な審査をする必要があるため、神奈川県情報公開条例第25条第1項第1号及び第2号に該当するため非公開とする。
- ・ボランティア団体成長支援事業のプレゼンテーション審査は公開とする。

(審議事項1 平成28年度募集分協働事業負担金特定課題の選考)

(基金事業課長から以下について説明)

- ・平成28年度募集分特定課題枠の提案状況（資料2）
- ・課題は、全部で6課題提案されており、本日選考された特定課題については、7月8日から7月29日までの間に募集を予定。
- ・本日は、これから各提案所属の説明者から1提案あたり3分以内で説明、各委員の質疑応答の時間は、5分以内。
- ・6件の提案数について、選考件数は0から6件。

(提案所属からの説明・質疑)

- ・平成28年度募集分特定課題の各提案所属から説明を聴取し、質疑応答をし

た。

(委員による審議)

- ・平成 28 年度募集分協働事業負担金特定課題について審議した結果、次の 4 課題を選考した。
 - ・子どもの貧困対策
 - ・地域における障害者スポーツの普及促進と「かながわパラスポーツ」の推進
 - ・生活困窮者の自立支援ネットワークの形成
 - ・空き家の利活用など住宅地のエリアマネジメントによる地域の魅力の向上・創出
- ・課題の名称、趣旨について、NPO協働推進課と課題提案所属と微調整を行い、結果を審査会に報告する。

(審議事項 2 平成 28 年度ボランティア団体成長支援の選考)

(基金事業課長から説明)

- ・ボランティア団体成長支援事業の審査スケジュール (資料 1)
- ・審査会に付議された案件 (資料 3)
- ・団体成長支援事業の今年度予算額 委託料 720 万円。
- ・事業実施は 7 月から、採択件数は 1 件。
- ・利害関係のある委員なし。

(事務局から説明)

- ・プレゼン対象事業の提案概要 (資料 4)

(幹事会幹事長からの報告)

- ・幹事会事業調査結果、幹事会における意見等説明 (資料 4)

(委員による審議)

- ・平成 28 年度ボランティア団体成長支援事業への提案事業に対するプレゼンテーション審査時の確認事項について検討した。

(プレゼンテーション審査)

- ・平成 28 年度ボランティア団体成長支援事業への提案事業に対するプレゼンテーション審査を行った。

(委員による審議)

- ・平成 28 年度ボランティア団体成長支援事業の提案事業に対するプレゼンテーション審査の結果を踏まえ、各提案事業について選考の可否等を審議した。
- ・担当委員の間で、結果発表の際のコメントを作成した。

(結果発表)

【長坂会長】 今日には本当にありがとうございました。

先に結果だけお話しします。私たちは本当に慎重に審査させていただき議論しました。

その結果、3つの中で関内イノベーションイニシアティブ株式会社のご提案を採択させていただくことにいたしました。契約金額は720万円。宜しくお願ひ致します。

これから、私たちがどういう議論をしたのかをお話させていただきます。

【基金事業課長】 審査委員からコメントを発表します。

「発信力強化を軸とした、組織基盤強化を目的とする事業」について佐藤委員。

【佐藤委員】 とてもわかりやすく力強いプレゼンをしていただきありがとうございました。決められた時間内で簡潔に物事を伝えられており、まさに御社の提供するサービスである「伝える力」、「発信力」に長けているプレゼンだったと実感しました。NPOが発信力、資金調達力を高めていくことの重要性はいまの日本で急速に広まっている。

御社の提供されているサービスが非常に社会的意義があることについては審査委員も全員同じ意見だと思います。

しかし、今回のプレゼンの質疑応答の中で、サービス提供後の支援団体の成果だったり、支援額の中で最大の比率を占める基本研修費の妥当性や、個別指導予算とのバランス、神奈川県独自の課題解決につながっているかという点や、また前回申請時と比べての前進した点、この点が審査委員側を説得するには至らなかったなあということで今回は残念ながら不採択となりました。

NPOの中で高い知名度のある御社であれば今後更なる活躍ができると信じております。御社のますますのご活躍を期待しております。

【基金事業課長】 「地域アセスメント（地域診断）による身近な地域の福祉活動団体の基盤強化及びサービス利用促進事業」について柴田委員。

【柴田委員】 かなり時間をかけて、みんなと協議させていただいた。

介護福祉の分野というのはまだまだ足りないところがありまして、特に今回テーマのありましたアセスメントという辺りでは考えさせられる点が非常に多かったなあと思います。

福祉分野での調査、アセスメント、更にはそれを分析、アンケートもなさるということでした。それらのアセスメント手法も含めてこれまでにない取組というのは全員が高い評価をしてくださいました。

ただ、残念なところが、アセスメントを、更に評価したものを、質問にもあったと思いますが、今度その結果をどう活動に活かしていくのかがどうも先が不透明感があるのかなあとひとつ感じた。

更には具体的アセスメント手法をあまり明確にしていられなかったというところがひとつ残念でした。入口と出口のところを、焦点を明確にしていればもっと評価が高かったのではないかと考えることができます。

今回不採用になりましたが次に今回の意見を受け止めながら再チャレンジしていただけるとありがたいと思います。ぜひもう一度お願いしたい。

ありがとうございました。

【基金事業課長】 「NPO支援機関の専門力強化および、NPOと支援機関のマッチングによる中長期計画策定支援」について高橋委員。

【高橋委員】 おめでとうございます。

じっくり議論させていただきました。NPO等が実践を意識して、NPO運営の正しい理解、海外関連施策の基礎知識の向上等を図りながら雇用の創出、社会変革、アドボカシーなどの役割を担うことは重要である、しかし実行が難しいと認識している。提案は、実効性が期待でき意欲も伝わってきた。参加団体支援者が共通理解を持ってプログラム卒業後の自立への促しや専門家、金融機関などの通常では現場にあまりなじみのない理解者や支援者を増やすための巻き込み方も工夫があって面白く実践に期待したい。

具体的には、参加団体支援に関し、持続性強化、底上げ、更に先進性を目的に成果としての中長期計画の策定、マネジメントの必要性の理解、先進的な取組み、NPOのケーススタディなどの要素を共有するなど参加団体の成長にとっては大事な要素であると認識しています。

また、前年度事業より更に前進した提案で「NPO運営のイロハ」のwebページより、現場で実践しているからこそ生まれた具体的なノウハウを広く展開することで初心者も今更きけない経験者もNPO運営に対する正しい理解が深まり、より事業運営に反映できることが期待できます。ぜひ現場経験の豊富な

プロボノの方との密な連携によって実現、成果を出していただきたい。

また基金21の団体の事業計画が5年以上なかなか見えにくいという問題提起もいままでの経験からの評価であると理解し、基金21参加団体も含めた支援をがんばっていただきたい。

また、中間支援者支援に関し、中間支援者や mass×mass にいるプロボノ等、同時に支援力アップができれば更に事業終了後にもつながり、よりよい提案になるかなとこちらも期待したい。

昨年度の実績としても、昨年度の発表において基金21卒業生を含めた参加団体の成長もこちらにも伝わっており御社が信頼のできる団体という風に理解している。ぜひとも多くのNPOが難しい雇用創出の流れを作っていただき多くのNPOの夢を広げていただきたい。応援している。

【基金事業課長】 長坂会長から全体の講評をお願いします。

【長坂会長】 今回の審査会で審査委員一同が確信したことがある。皆さんに対する信頼感がとても高まったというか確立した。

みなさんどこにお願いしてもちゃんとしっかりやっていただける。すっかり皆さんに説得された。

ファンドレックスは一番最初に実績があるし、関内イノベーションイニシアティブ株式会社についても前年度やっていただいた。アセスメントについてもすっかり我々は皆さんのファンになっていて、皆さんにお願いしようとの意見もたくさんあった。基金21にとってみなさま方は、私たちのパートナーとして皆さんの信頼感をドスンと得ることができた。これからも力をお借りしたいと思えますし、これからもパートナーとして一緒になってやっていくことができると感じています。

中間支援団体のあり方というのは最初は、数年前からですので、最初はファンドレックスさんの迫力あるやり方で成果を挙げ、次はなぜファンドレックスさんじゃなかったかという、ひとつ私たちの中でいろいろなことをやってみようじゃないかという新しい中間支援のやり方についての方法、ツールなりをいろんな方をお願いしていきたいということで2年目、3年目とやってきました。実は今回は前年度と継続になります。継続になるということは、前年度の成果を挙げていただいたと同時に前年度の反省なり成果を踏まえながら前進させもう一度やっていただく価値があるのではないかということです。

さっき、また応募してくださいと申し上げたのは皆さんの気持ちが今回も前回もアセスメントがなんなのかというところまでプレゼンが及ばず私たちが説得されたわけではないのですが、ただ、私たちもアセスメントの重要さや今日

のプレゼンテーションの熱意を感じましたので、アセスメントの手法による中間支援の在り方というのもいつかは実現するといいなあと感じました。

来年、次回採択するかどうかは別問題ですが、皆さんに対する信頼感が高まったということは確かであります。パートナー感というものを審査委員一同も感じたところでした。これからもどうか基金21を皆さんとともに引っ張っていただけていくように宜しくお願いします。皆さんお時間ありがとうございました。

【基金事業課長】 これを以て結果発表を終了させていただきます。

(審議事項3 平成28年度協働事業負担金事業(保留分)の選考)

(基金事業課長から説明)

- ・平成28年度協働事業負担金の対象事業については、3月2日の審査会で採択する事業を選考した。
- ・協働事業負担金のうち、(特非)チャイルドファーストジャパンから提案のあった事業については、3月2日に結論が出ず、3月23日にも継続で審議したが、いまだに結論がでていない。

(事務局から説明)

- ・協働部署との協議状況

(委員による審議)

- ・(特非)チャイルドファーストジャパンの提案事業について、子ども家庭課及び警察本部から提出された「協議結果報告書」を基に審議した結果、協議不成立と認められ不採択とした。

(審議事業4 神奈川県ボランティア活動推進基金幹事会幹事の選任)

(基金事業課長から以下のとおり説明)

- ・現在の第8期幹事の任期は、来年5月31日までとなっているが、小林理幹事が、一身上の理由で本年3月31日付けで辞職。
- ・後任に、資料6のとおり、日本女子大学人間社会学部社会福祉学科准教授の黒岩亮子氏を推薦したい。
- ・幹事の選任については、神奈川県ボランティア活動推進基金幹事の設置に関する要領第3条第1項の規定に基づき審査会で選任することになっているこ

とから、審議願いたい。

(委員による審議)

- ・事務局から推薦のあった黒岩亮子氏の幹事選任について審議した結果、幹事として選任することを決定した。

(その他)

(奨励賞の審査基準)

- ・委員による意見交換を行った。

(閉会)

- ・かながわ県民活動サポートセンター所長からあいさつ
- ・次回審査会日程（10月19日）